

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370800795		
法人名	社会福祉法人しあわせあつくん		
事業所名	グループホーム大喜		
所在地	名古屋市瑞穂区大喜町二丁目79番地		
自己評価作成日	23年11月1日	評価結果市町村受理日	平成24年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	総合福祉研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成23年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念の「ひとり1人を大切に」「人は人の中で元気になる」を心がけて、日々職員が入居者様に接しています。生活リハビリを重点に置き、日常生活のなかで入居者様の役割を見出す努力を行っております。地域密着として町内行事や老人会と3か月に1度の頻度で日帰り旅行などを実践しております。1ユニットの少人数であるためご家族の協力のもと、ひとりひとりにあった個別ケアを実践し、グループホーム大喜では理念に基づいた「ひとりひとりを大切に」を入居者様に関わらせて頂くためターミナルケアも行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎日の朝礼で法人理念と職員実践5項目を唱和し、職員ひとりひとりがそれに沿った支援に取り組んでいる。利用者がホームで過ごせて“良かった、楽しい”と思ってもらえるよう、日々の何気ない言葉から意見や要望を大切に、利用者本位のサービスに努めている。特に「花火が見に行きたい」「なばなの里へ行きたい」などの要望が挙げれば、出来る限り外出支援を実行している。そうした日々の積み重ねから、利用者からは「ここに居られて本当に幸せ」や「何でも一生懸命やってくれる」との声が多く聞けた。家族との連携も運営推進会議や日々の面会を通して密に図れており、利用者の終末期までを見据え、一緒に支えて行く体制ができている。また、老人会の日帰り旅行の参加や近所の秋祭りへ出向くなどし、地域の人々との交流も大切に、地元に関わったホーム作りが出来ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「ひとりひとりを大切に」「人は人の中で元気になる」職員実践5項目「責任ある行動・丁寧な言葉づかい・親切な態度・清潔な身なり・正確な連絡報告」を申し送り時に唱和・施設内に理念の表示を行い、日常から意識し実践できるよう心がけている。	毎朝理念を唱和することで、職員ひとりひとりの支援の方向性がぶれないようにしている。特に言葉の使い方には気を付けており、利用者との関係が慣れ合いにならないよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の老人会と共同で、3か月に1度の頻度で日帰り旅行を行っている。また、町内会の行事(お祭り・総会など)に職員・入居者様ともに参加をしている。	老人会との定期的な交流も今年で3年目に入り、顔見知りの人も増え親交が深まっている。1Fにあるデイサービスと合同し、ハーモニカや日本舞踊などのボランティアによる交流会に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会と当法人で企画した日帰り旅行などを実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の頻度で運営推進会議を実践し、家族会を併用したり、町内の方が参加しやすいよう会議の場所や内容など工夫しながら意見をサービス向上に活かしている。	いきいき支援センターの職員や町内会長などを迎え会議を実施している。ホームの現状や終末期への取り組み、災害時の支援体制などについての話し合いを行い、他職種や地域からさまざまな意見をもらえるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題が生じた場合など市役所の介護指導課へ問い合わせを行いアドバイスをいただいている。	市が主催している研修や講習には、新人職員を含め順番に受けるようにしている。個々のスキルアップを図り、日々のサービスの向上に努めている。区役所介護保険課とは認定調査などの手続きに出向いたり、介護に関することで相談や助言をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をせず、入居者様には自由にすごしていただいているが、エレベーター前に階段があり危険防止のため扉を閉めている。	ホーム内で勉強会を開催し、利用者にとって何が具体的に拘束になるのかを周知している。身体的や、言葉が利用者の意に沿わないケアサービスも拘束にあたることを、管理者から各職員にその都度伝えている。	パート職員も勉強会に参加し、職員全員が身体拘束について正しく理解し、支援に取り組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員ミーティング・施設内研修にて学ぶ場をもうけたり、虐待防止マニュアルを休憩時に閲覧できるように設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様に実際、成年後見制度を利用されている方がおり関係機関を通して日常より実践しながら学んでおります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居予定時にご家族の方と懇談を行い、契約の際、十分な説明を行っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所の時(週1～週2程度)に話し合いを行っており、意見・要望を職員間で共有し話し合いののち反映を行っている。	家族から支援の方向性や小遣いの管理方法などで意見や要望が出た時は、職員間で話し合いすぐに実践に反映できるよう努めている。家族会は年に2回実施されており、家族間の交流の場となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティング・個別面談を行い意見や提案を吸い上げる環境に努力している。	管理者が各職員に職場への意向や取り組みたい仕事を聞き、やりたいことを実践できるように努めている。またパート職員も含め、出来る限り働きやすいようシフトを組むようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ひとり1人と個別に話し合う場を設け、良い点・悪い点を評価し公平性を保つことに努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や外部研修に参加できるよう配慮はしているが全職員平等には行えていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人全体で外部施設の実習・研修の受け入れを実施しており交流を図っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族来所の際(週1程度)過ごし方や様子などを報告して情報・意見交換を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と懇談を行い、施設に入るにあたりどう対応していくかご家族と一緒に考え、対応を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様ご本人とご家族の意向に沿えるよう努力し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リハビリの一環として、日常生活の食器拭きや洗濯たたみ、掃除など一緒に行い、頼られていると入居者様に思っただけよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に一度の誕生日は、ご家族と相談し、ご家族と職員が協力してお祝いを行うなどご家族と一緒に入居者様をささえて関係づくりに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもと、施設側として入居者様のなじみの場所などに外出を行っている。施設内でも中のよい入居者様どうし過ごせるよう配慮している。	家族が面会に来た際、昔から通っている美容院や、好きな中華料理屋などへ一緒に出かけている。また以前絵を教えていた生徒が、定期的に会いに来たりと馴染みの関係を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方々に配慮した食事の席など環境づくりをこころがけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終わられた方とは、頻繁ではないが連携がとれており見舞い、葬儀など出席をしている。相談事など問い合わせがあった場合も協力を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様とご家族を交えながら話を行っているが入居者様の意向には沿っているものの、ご家族の意向や都合が先に立ち、入居者様本位になっていないこともある。	日々のケアサービスの中で利用者の意向を察知し、職員に申し送り、情報交換をして意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、生活習慣や環境をお伺いし、無理なく生活できるよう配慮している。また居室にはご自宅で使い慣れた家具などを持ってきて頂き少しでもご自宅に似た環境づくりに努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、起床時からのコミュニケーションを通し入居者様の心身状態など確認を行い一日の過ごし方について職員間で話し合い検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の意見を反映し、ご家族と相談をまじえて職員で話し合いを行い介護計画を作成している。	介護計画は3ヶ月毎で作成するが、日々の記録を元に1ヶ月毎にミーティング会議で話し合ったり、また、家族、その他必要な関係者とも話し合いケアプランを変更しており状況に即した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などは日報に色分けや付箋を活用しケアの実践・結果・気づきの工夫を行っており、介護計画実行表に1週間の結果をまとめ介護計画の見直しを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、同法人のデイサービスに通い活性化を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の幼稚園、ボランティア・町内会を招いて交流を図り、心身の力を生かし楽しんでもらえるよう努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が2週間に1度の往診を行っており、緊急時や相談事など随時対応していただいている。	利用者や家族の意向で、馴染みの医院への受診が継続できるよう配慮している。歯科は往診にて、皮膚科は職員の通院支援にて受診体制を整えている。職員を通してかかりつけ医と専門医の連携をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人のデイサービス看護師が毎週水曜日(週1度)健康測定や緊急時の対応をおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にアセスメントなどの情報提供や、ご家族・担当医との連携、また医療機関への面会に行くなどしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様・ご家族の意向に基づき、かかりつけ医と相談をし、職員・ご家族・かかりつけ医で方針を共有し対応している。ターミナルケアの対応も心がけている。	入居時に利用者、家族に重度化指針を説明して同意を得ている。重度化になった場合、医師や家族、職員と話し合い最善策に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルには各入居者様の緊急対応資料を備えAEDと一緒に持ち出し易くし対応しているが、定期的な訓練が出来ていないのが現状である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者様を交えた、年2回以上の防災・避難訓練を実施している。災害時には町内の方々の協力をいただけるよう近隣の住人・町内会長には連携を図っている。	災害対策の課題として挙げた避難経路の確保について、消防署と相談し、建物の構造上一番安全な場所である2Fテラスへの避難経路が決定した。夜間を想定し利用者を変えた避難訓練も実施している。訓練の様子を写真にし、事業所全体で防災の意識を高め改善に努めている。	災害時に消防車が入れない立地から、周辺住民の協力が得られるよう、事業所の防災訓練に参加してもらえよう声をかけることを望んでいる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「丁寧な言葉づかいと丁寧な言葉づかい」を心がけるよう職員間で意識し合って入居者様の要望にあわせた対応と尊重を重視したケアに努力している。	職員実践5項目にある「丁寧な言葉づかい」については、管理者がその都度指導し職員に周知させている。職員は利用者を人生の先輩として敬い、利用者との関係が馴れ合いにならない様言葉づかいに注意を払い、丁寧な言葉づかいでの対応を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や表情、しぐさなど観察し、職員間で話し合い状況に合わせた対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の決まりや都合が優先されがちだが入居者様のペースに合わせた過ごし方をこころがけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力を得ながら、馴染みの理美容に通っている。協力が得られない場合は、訪問理美容などで対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居様と一緒に食事の準備・片付けなど行っている。食事は配食サービスを利用しているが、外食や施設で食事イベントなども行っている。	節句の際は行事食を取り入れ、誕生月やイベント時は利用者の希望を聞き、電気調理器を使いクッキングをしております楽しみの一つである。利用者で刻みが必要な利用者には個別に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の要望や状況に合わせた食事の提供を行っている。10時のコーヒータイムなど好きな飲み物がいつでも飲めるように水分量の確保に努力している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っており、心身状況に応じた対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様に合わせた下着やおむつ・パッドを使っていたり、入居者様ひとりひとりに合わせた排泄支援を行っている。	利用者の排泄パターンを把握してトイレ誘導している。利用者の自尊心を損なわない様パットの置き場を工夫したり、さりげない言葉がけをする等の配慮がみられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩・体操など体を動かすレクリエーションを行ったり、寒天など食事療法にも取り組み便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の意向に沿ったうえで、生活リズムに合った入浴を心がけている。夏の暑い時期と冬の寒い時期の入浴など季節に合わせた環境設定も心がけている。	夏冬季節に応じ入浴日数を調整し、利用者にとって負担なく入浴できるよう配慮している。入浴時間は利用者の希望に添い、浴室にはサウナを設置し、浴槽にゆずを浮かべたりと、心地良い入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の意向や、生活習慣、状況に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方された説明書のファイリングをし職員間で共有し、効果・症状の観察につとめています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物や散歩などの外出を取り入れたり、入居者様にあわせた個人レクリエーションを実践している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の意向に沿い外出を実施している。日頃は喫茶店や近隣に外出、町内老人会と日帰り旅行や2年に1度の1泊旅行なども行っている。	毎日散歩の時間を設け、利用者にとって楽しい日課となっている。職員の配置により、車で喫茶店やスーパーへ出掛けたり、馴染みのある場所への外出の機会もある。時には利用者の希望で「なばなの里」に出掛けるなど、利用者の要望を取り入れた外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内での所持は紛失してしまう恐れがある為ご家族の了承のもと持たないようにし、施設で管理している。外出時に個人用財布を用意し、買い物などに使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居様が電話をしたいと希望がある時は施設の電話を利用させていただいてる。手紙は年賀状をご家族と交換している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2・3階廊下に作品や写真を展示し、ベランダには季節の花やゴーヤなどを植え生活感や季節感を味わえるよう努力している。居室にも季節のお花などを飾っている。	リビングは開放感があり、食卓テーブルやソファの配置は静かに過ごしたい利用者を考慮し配置されている。また、リビングや廊下には季節を感じる壁飾りやイベント時の写真を展示し、居心地よく生活できる環境作りに努めている。掃除も行き届き、清潔感が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の意向や状況に合わせたテーブルの配置を行っている。また、一緒に会話や行事が共有できるよう職員が配慮に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の各居室に馴染みの家具や雑貨をご家族の協力を得て配置している。	利用者の馴染みのある家具が持ち込まれ、それぞれの趣向にあった生活スペースが確保され、安心して生活できるよう努めている。仲の良い利用者の居室を近くし、気軽に居室を行き来し、ゆっくり居室で過ごせる様な配慮もされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングで過ごす場所の配置や居室に本棚を用意し自室で読書出来るように配慮したりしている。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2370800795
事業所名	グループホーム大喜

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） 同法人内で近所の幼稚園児を招待し、発表会に合同で参加したり、利用者と一緒に町内の総会に出席し、地域交流を積極的に図るよう努めている。	評価 ○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） 今年より瑞穂区いきいき支援センターから職員の参加協力を得ることが出来た。他のグループホームの活動状況などが開け、情報交換の場となりとても参考になった。また、今年は3月にあった大震災を機に、災害時の避難場所の再確認や地域から得られる協力と連携体制について話し合いを行った。	評価 ○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4） スプリンクラーの設置について、義務化された当初より、ホームの構造上難しい点は何箇所もあり、市から指導とアドバイスをもらった。その上で、どうしたらよいか連携を図りながら改善計画を立て、来年設置が出来る運びとなった。	評価 ○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） 今年より、毎月各利用者の個人便りを家族へ郵送している。担当職員のコメントと活動風景の写真を一緒に載せたことにより家族から「日々の様子が具体的に分かり、とても助かる」との声ももらっている。利用者・家族の声を大切にしホームへの信頼度が高いのが伺える。	評価 ○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	×	×	○			

1. 外部評価軽減要件

外部評価軽減
要件確認票
事業所番号

- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
	(例示)
2. 事業所と地域のつきあい	① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取り組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。

